

充血状態を示す。

#### 検査・診断

基礎疾患の有無を検査する。サーモグラフィーで通常時の皮膚温の低下や、寒冷刺激からの回復の遅延を観察する。寒冷刺激試験(4℃の水に1分間手をつける)で誘発されることもある。若年女性で基礎疾患が見つからず、2年間経過すれば一次性Raynaud現象とみなして差し支えない。

#### 治療

発作の原因となる要素を除去し保温する。プロスタグランジン製剤などの投与を行う。禁煙が効果的である。

### 4. 慢性静脈不全 chronic venous insufficiency ; CVI ★

同義語：静脈不全症 (venous insufficiency), うっ滞性症候群 (venous stasis syndrome)

#### 定義・症状

下肢静脈瘤 (varicose veins, 図 11.30) を基礎として, さまざまな症状を呈するものをいう。中年女性や高齢男性に好発し, 肥満や立ち仕事の多い者に生じやすい。下肢浅在静脈がホース状, 結節状に拡張して蛇行する。側副血行路により網目状の静脈拡張をみることもある。進行すると下肢倦怠感, 腫脹, 疼痛, 色素沈着, うっ滞性皮膚炎 (7章 p.127 参照), 皮膚硬化〔硬化性脂肪織炎 (sclerosing panniculitis)〕を経て, 難治性潰瘍を形成する (図 11.31)。

#### 病因

下肢静脈瘤は, 長期立位などで浅在静脈や穿通枝に弁不全を生じた一次性, 深部静脈血栓に伴う圧上昇や, 血栓性静脈炎後の弁破壊, 妊娠時の循環量増加などによる二次性, およびクリッペル・トレナウ・ウェーバー症候群 (20章 p.401 参照) などによる先天性に分類される。これらの機序により大伏在静脈や小伏在静脈の内圧上昇や還流障害を生じる。

#### 治療

長時間の歩行や起立を避け, 下肢の挙上や弾性ストッキング着用を行う。静脈不全症の皮膚症状に対しては対症的に抗ヒスタミン薬やステロイド外用薬などを用いる。レーザーやラジオ波を用いた血管内治療, 硬化療法, 静脈剥去術, 静脈高位結紮術も考慮する。



図 11.30 下肢静脈瘤 (varicose veins)  
静脈弁不全により下肢浅在静脈がホース状, 結節状, 囊状に拡張して蛇行する。

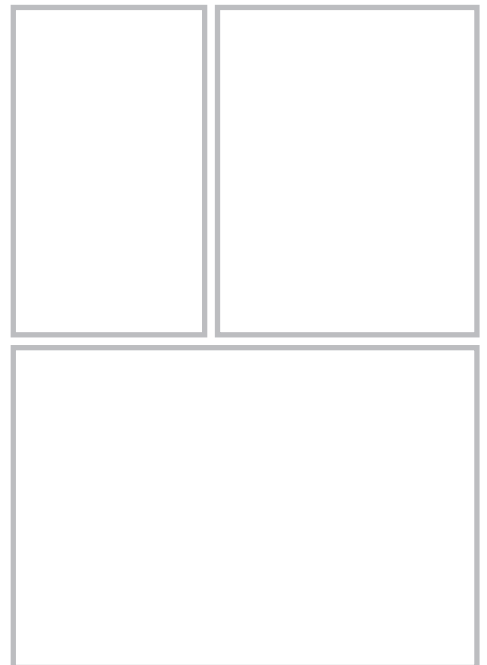


図 11.31 慢性静脈不全 (chronic venous insufficiency)